

(二)「あるがまま」について(「生活の発見」誌一九九一年九月号掲載)

「行動」を通じて身につく「あるがまま」

気づいたら実行することです。はじめは、気の重いままにでも。しかし、学びかつ実践し続けるうちに、「行動すること」の値打ちがわかるようになります。そして、行動の大切さがわかるようになります、もう少し気軽に、行動するようになります。きっと「あるがままになすべきをなす」経験の積み重ねが、力となって、押し出してくれるのでしょう。そして、学習、実践と経験、その総括の繰り返しの中で、実感し、認識を深め、理論としての「あるがまま」の生き方は、すっかりあなたの身についたものになってゆくことでしょう。今、私の前に、またあらたな困難が横たわっています。今度はなかなか難しく、恐ろしそうに感じられます。何度となく悩むことになりそうな予感もします。しかし、目的をしっかりと見つめ、歩むほかありません。

「あるがまま」に進むほかありません。

(続)